

事業名称	「どこでも文学館」		
実行委員会	「どこでも文学館」実行委員会		
中核館	世田谷文学館		
	住所	〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 1-10-10	
	TEL	03-5374-9112	FAX 03-5374-9120
	ホームページ	https://www.setabun.or.jp	
構成団体	世田谷区立世田谷文学館、世田谷区立芦花小学校、粕谷区民センター運営協議会		
事業開始時点の課題分析	<p>1) 本事業は全区に向けて活動しているが、地域によって活動場所、回数に偏りがあり、受入側によっても温度差がある。⇒新規の活動先(拠点)の開拓が必要</p> <p>2) 継続的に活動するファシリテーターの養成が未着手。 ⇒ファシリテーターの育成が必要</p> <p>3) 「地域交流展示」のために開発してきた展示キットは、一定以上の広さやピクチャーレールなどの設備を前提とした仕様になっているため、全ての施設や会場で展示できるわけではない。 ⇒小型で簡易な展示キットの開発が必要</p> <p>4) 蓄積してきた知識やノウハウ、スキルを検証し、評価するサイクルを意識的に行う仕組み作りが不十分 ⇒利用者、講師、会場スタッフへのヒアリング、事業のブラッシュアップ、記録集の刊行などの実施が必要</p>		
事業目的	<p>「いつでも・どこでも・だれでも参加できる博物館」を活動方針としながら、学校や図書館への出張展示や、子どもを中心に幅広い世代に向けた多彩な講座・ワークショップを実施し、「地域の子ども」「地域の大人」「地域の博物館」を積極的につなげていく。</p> <p>将来的には世田谷区全域に浸透させ、わざわざ博物館までに出かけなくとも、区民誰もが日常生活のさまざまな場面で文化・芸術に親しめるチャンネルを持てるようなシステムの構築を目指す。</p>		
事業概要	<p>あらゆる世代、立場の人びとが参加できる「どこでも文学館」を、出張展示と講座・ワークショップの2本柱で実施する。今後は、従来の活動に加え、①展示やワークショップの拠点となる施設(学校・図書館・区民センターなど)を新規開拓し、②「どこでも、だれでも」展示できる小型で簡易な出張展示キットを開発、③これまでのプログラムをブラッシュアップしつつ、新規プログラムを開発、④企画運営の一部を担える人材(ファシリテーター)を養成、⑤拠点施設スタッフとのノウハウの共有、⑥記録集の編集・発行などの新規課題にも取り組みながら、「どこでも文学館」の世田谷区内における浸透、ネットワーク化を目指していく。</p>		
実施項目 ・ 実施体系	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</p> <p><input type="checkbox"/>イ ユニークベニユ어의促進</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <p>■ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</p> <p><input type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</p> <p>■ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</p> <p><input type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</p> <p><input type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p>		

<p>施後の 成果・効果等</p>	<p>本事業の実施により、地域とともにある文学館としての活動を下記のとおり実践できた。</p> <p>(1) 地域での展示活動の推進 地域交流事業では、これまで実績のある小中学校や区民センター等に加えて、新たに区関連施設として3校（駒留中学校、世田谷中学校、祖師谷小学校）と、1箇所（川場村ふじやまビレッジ「せせらぎの湯」）での展示を開拓し、より幅広い地域と世代の利用者を獲得した。また、本事業の新しいコンテンツとして、「セタブン人生相談—あなたのための人生処方箋」バナーを制作した。世田谷ゆかりの作家たちをユニークな視点で紹介したコンテンツは気軽に文学に触れることができると好評を得て、利用者の拡充を図ることができた。</p> <p>(2) ワークショップ等、新しいプログラムの開発と実践 地域交流催事では、新たな区関連施設として、1校（八幡山小学校）を開拓し、「学校公開日」にあわせて出張「ネイチャー・コラージュ」を実施した。また、新規開発した「哲学カフェ」「朗読講座」は、館内ライブラリースペースを活用して実施した。これまでも開催実績のある創作講座（「だれでも小説家」や、地域施設と連携した「だれでも製本家」）は、よりプログラムに広がりを持たせた内容で実施した。さらに企画展と連動した「バルーンアート・ワークショップ」では、展示している絵本の世界観を、幼児から大人までだれでも自由に表現できる内容となり、幅広い参加者とともに楽しむことができた。</p> <p>(3) 地域のボランティア人材の確保と活躍の場の提供 区内施設での展示・ワークショップをとおして、地域に在住・在学する人々にボランティアとして協力してもらい、地域の核となる人材との協力関係を強化した。</p>
-----------------------	---

【事業実績】

「いつでも・どこでも・だれでも参加できる」を活動方針として、「地域に根ざした文学館」となることを目指し、地域と協働しながら事業を実施した。この事業は、館内外で行うワークショップなどを「地域交流催事」、図書館や小中学校での出張展示を「地域交流展示」、文章や挿絵の制作や本の装丁を体験する「本作りワークショップ」、多様な区民を対象とした講座を「だれでも文学館」と位置づけ、「地域の子ども」「地域のおとな」「博物館」を積極的につなげながら幅広い層と地域への浸透を試みた。さらに新規出張展示バナーセットを開発し、コンテンツの充実を図った。

1. あらゆる者が参加できる「どこでも文学館」によるアウトリーチ活動

(1) 小・中学校と連携した地域文化の担い手の育成

① 地域交流催事【学校連携プログラム】(どこ文・学校)

・「芦花小学校＋大竹英洋ワークショップ」実施:11月21日144名、22日143名、27日141名参加

② 地域交流催事【ことばとからだ】(どこ文・ダンス)

・「ことばとからだ ～からだで表現しよう～」実施:8月21日25名参加

③ 地域交流展示【出張展示】(どこ文・展示)

・展示37箇所

平成30年4月27日～平成31年2月28日96,949人

(2) 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施

1-A 本作りワークショップ【ショートショートを書こう】(どこ文・短編)

・「だれでも小説家 ～ショートショートを書こう～」実施:9月8日16名、9日14名、16日8名参加

・「超ショートショート講座」実施:2月16日11名参加

1-B 本作りワークショップ【気持ちの絵を描こう】(どこ文・挿絵)

・「だれでも絵描き ～画家の仕事を体験しよう～」実施:7月28日中止、29日18名参加

1-C 本作りワークショップ【本の形に仕立てよう】(どこ文・製本)

・「だれでも製本家 ～ことばのない絵本を作ろう～」実施:8月4日19名参加

2-A だれでも文学館【自然の素材に親しもう】(どこ文・ネイチャー)

・「植物と遊ぼう ～植物っておもしろい 命ってすごいよ～」実施:8月9日60名参加

2-B だれでも文学館【本と自然のにおいを楽しもう】(どこ文・くんくん)

・実施せず

2-C だれでも文学館【親子でおはなしを楽しもう①】(どこ文・お話)

・「ことばとたんか ～古典を楽しもう～」実施:8月18日18名参加

・「ほんとわ哲学カフェ ライブラリー〈ほんとわ〉イベント」実施:2月11日16名参加

2-D だれでも文学館【親子でおはなしを楽しもう②】(どこ文・声優)

・「もっと絵本を楽しもう ～プロの読み方を聞いてやってみよう～」実施:8月31日35名参加

・「もっと朗読を楽しもう ～プロの読み方を聞いてやってみよう～」実施:11月14日7名参加

3 こども文学館【冒険物語をつくろう】(どこ文・監督)

・実施せず

(3) 地域交流展示・催事の全国発信

① 地域交流展示・催事【活動の告知・報告】(どこ文・広報)

・報告書「どこでも文学館報告書2018」2018年3月30日発行(B4タブロイド判3,000部)

② 地域交流展示【新規展示キットの開発・制作】(どこ文・制作)

・新規バナー制作7枚1セット「セタブン人生相談」バナー